

## センス・オブ・ワンダー観察会

### ——新緑の清里高原で支援と遊ぶ——

2023年6月24日～25日

キープ 清里自然学校で、3名の方が参加できなくなり、大人8名での自然観察会が行われた。

初夏の陽気に迎えられ、せせらぎの音を聞きながら、守の道を連れ立って歩く。エゾハルゼミが鳴き、ヤマオダマキの花、ヤマモミジの翼果（ヘリコプター）と出会い、喜びつつ清泉寮へと向かう。

受付が済み、参加者の自己ならぬ他己紹介の後、自然学校のレンジャーさんに導かれ、寮周辺を散策、森の中へ。幹周り1m程の大木に、赤ちゃんの手首くらいの太さのツタウルシの蔓が幾本も絡みつき、空へ伸びている。後尾には中国の研修生さんがつき、質問に答えながら、知らずにツタウルシの葉に触れた人の手を、かぶれぬようにと水で洗い流してくれる。



進みながら新聞紙大の板を草原から持ち上げると、モグラの通り道（坑道）が現れる。レンジャーさんが、小さな紙箱に収められているモグラの剥製を回して見せてくれた。

森に分け入り、ネイチャーゲーム。”緑色”と言っても、微妙に色合いは違う。「色名を記した色つき付箋紙の色に近い植物を探してください」と。8名8色—深緑、萌葱色等々の色や形の異なる葉や苔を探し見つけ、シート上に並べて色比べ。さまざまな自然の造化の妙に感じ、感動する。そして、ワイン試飲用のカップに、「小さな森を作りましょう」と誘われ、植物をほんの少しいただき、それぞれ思い思いの8つの小さな小さな森を造り、何年後かの森を想い、楽しんだ。

寮に帰ってからは、森からいただいた珍しい葉や花を美しい形のままだに記念に残すべく、ラミネートにいそしむ、というか集中する、微笑ましいひとときとなった。いつもながらのおいしい夕食後、懇親会。残念ながら星は広がる雲の上だった。

翌朝、朝食前の周辺散歩。一足早く出かけたFさんは、草原で



2023年6月24日 清里にて  
（チャールズ・ワグネル）日本協会理事フォーラム

キジの雄（羽がきれいな）を見たとのこと。カッコウ、ウグイス、ホトトギス、シジュウカラの囀りを聞きながら、清泉寮ファームショップ周辺を散策する。草原で K さんは四つ葉のクローバーを見つけた。20 年近く清里観察会に参加されていて、初めてとのこと。幸福の印、お守りとしてラミネートされたのでは。なお、五つ葉を見つけられた方も。

草原の奥、せせらぎを前に新しそうなハンモックが 2 カ所、ブランコが 2 台、大樹に駆けられていた。小川の向こうには、大人も遊びたくなるようなツリーハウスまで作られていた。ハンモックに乗った人によると「とても気持ちが良い」とのこと。降りる時のバランスにわずかのコツがいるらしい。

朝食はいつもの焼きたてのパンではなく、ご飯と具だくさんの味噌汁、6 種類の漬物も用意されていた。梅干しや漬物、金山寺味噌のような甘味噌（作りかたを教えていただいた）がとてもおいしく、厨房の方々の心遣いが伝わる朝食だった。

その後、皆でピクニックバスに乗り、県営八ヶ岳牧場へ向かう。標高 1450m。青い空が広がり、白い雲、遠くの山並みが連なり、羊がのんびり牧草を食んでいる。帰路、4 名は遊歩道を下った。ムラサキツユクサやコアジサイを見、落葉や小枝が積もって一歩踏み外すと溪谷に転がり落ちそうな道。少し開けた場所に、地面から 1m あたりで二股ならぬ 5 つの幹に分かれた大樹があり、幹に登ってそれぞれポーズを取って写真に収まる。

清泉寮本館脇から、ジャージーハットを経てファームショップでソフトクリームを頂き一休み。サラサドウダンの花咲く牧場の柵の間際で牧草を食む一頭のジャージー牛。その牧草を食む音、バギバギ、ザクザクと大きな音のすごさに驚いた。遠くから眺めていたのでは、聞こえなかっただろう。

昼食はトマト風味のカレーライス。帰途、清里駅ホームから富士山は夏の雲に隠れていたが、八ヶ岳の稜線が青い空にくっきり映えて眺められた。

今回の清里観察会もたくさんの不思議を自然に学ぶことが多く、センス・オブ・ワンダーにあふれたとても楽しい自然観察会でした。次回は子どもさんがたの参加を楽しみにしています。

（飯泉京子記）

